毎月5日・15日・25日発行(ただし1月5日、5月5日、8月15日は休刊)　ISSN 1881－4417

ROTOBO Connecting Markets

ロシアNIS経済速報

一般社団法人 ロシアNIS貿易会　2020年(令和2年)1月15日号 No.1814

目　次

2020年代のロシア・ユーラシア地域秩序を占う(上) ……服部 倫卓 1
統計速報 …… 14
2019年1～11月の日本の対ロシア・NIS諸国輸出入通関実績／14
2019年1～11月の日ロ貿易／15
キーパーソン …… 17
バイミシェフ・カザフ産業・インフラ発展省次官が任命／17
エトセトラ …… 17
「ロシアビジネスセミナーin神戸―中小ビジネスの可能性―」のご案内／17
セミナー「2019年のロシア経済と石油・ガス産業部門の最新潮流」のご案内／17
トピックス …… 18
トルコへのロシア産ガス輸送管が稼働開始／18
ヤマルLNG向け新造LNG船、2番船が竣工／18
国交省がシベリア鉄道輸送実証の追加実施／18

2020年代のロシア・ユーラシア地域秩序を占う(上)

ロシアNIS経済研究所　副所長
服部 倫卓

はじめに

本稿では、2020年の年頭に当たって、当会の事業対象国であるロシア・NIS諸国の政治・経済・国際関係の動向を概観することを試みる。その際に、この地域の盟主的な存在であるロシアと、その他のNIS諸国との関係性に重点を置きながら、またロシアと欧州連合(EU)および中国という外部勢力との相克に着目しつつ、各国の国情を見ていくことにする。

ロシアの主導によりユーラシア経済連合が発足したのは2015年1月1日だったので、ちょうど5年間が経過したところである。それに至る過程では、ロシアによるユーラシア統合のイニシアティブと、EUによる「東方パートナーシップ」がせめぎ合い、ウクライナ危機という未曽有の地政学的危機を招来することとなった。それをめぐるロシアと欧米の対立は、いまだに解消していない。しかし、いったんは「親ロシア」と「反ロシア」に色分けされたかに思われたユーラシアの地図は、ここに来て変容の兆しも見せており、2020年代のロシア・ユーラシアの地域秩序の見通しは混沌としてきている。

今回の前編では、ロシア、ウクライナ、ベラルーシ、モルドバという欧州系の国までを論じる。中央アジア諸国および南コーカサス諸国については、次号の後編で論じる予定である。